

令和 8 年度宇都宮市民大学専門講座企画募集要項（案）

I 令和 8 年度市民大学の実施方針について

本編資料「令和 8 年度宇都宮市民大学の実施方針（案）について」のとおり

II 市民大学の実施方針について専門講座の募集概要

次のとおり、専門講座の企画を募集する。

1 募集分野（コース）

(1) 郷土を愛する「宇都宮学」コース

郷土「宇都宮」の歴史や文化、産業、自然、民俗など「宇都宮」の特質や魅力について学び、「宇都宮」に誇りや愛着をもつための講座

※ 開催回数の半数以上が宇都宮（人・物・歴史等）に関する内容であるもの

(2) 今を読み解く現代社会コース

個人や社会を取り巻く環境がめまぐるしく変化する現代社会において、より賢く快適に暮らしていくため、社会の流れを読み解き、暮らしや地域コミュニティに活かしていく知恵を学ぶ講座

(3) 暮らしを彩る文化・教養コース

芸術・文学・科学のほか、先進技術など広範で学術的なテーマから深い教養を身に付け、潤いのある生活を送るための講座

※ 宇都宮市以外の地域をテーマとした文化・歴史などが対象となる。

2 募集講座数

各コース合わせて 9 講座

3 応募資格

宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ（Vスタッフ）の個人又はグループを対象とする。

4 応募方法

(1) 応募受付期間

令和 7 年 9 月 8 日（月）から 10 月 10 日（金）

(2) 提出書類

- ① 令和 8 年度宇都宮市民大学専門講座応募申込書
- ② 令和 8 年度宇都宮市民大学専門講座企画書（様式 1）
- ③ 令和 8 年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）（様式 2）

(3) 提出先

宇都宮市民大学事務局（人材かがやきセンター内）

(4) 提出方法

直接、メール又は郵送

- ※ 応募書類の返却は不可
- ※ 提出書類の様式について、電子データの様式を希望する方は、college@city.utsunomiya.tochigi.jp宛てご連絡ください。

5 講座決定までの流れ

(1) 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会の実施

書類審査を通過した企画は、令和7年11月上旬に、選考委員会によるプレゼンテーション審査を実施する。講座企画運営選考委員会の日程については、応募書類提出後に改めて通知する。

(2) 宇都宮市民大学運営協議会における審議

上記選考委員会の審査結果を第3回運営協議会に報告し、審議の上、採用する企画を決定する。選考結果については、応募グループ代表者に一括して通知する。

6 講座企画者の役割

採用された講座の企画者は、講座企画運営選考委員会の意見を講座内容に取り入れるとともに、事務局担当者と協力して、講座内容のより移送の充実を図る。

また、講師との調整、広報紙等の校正協力のほか、講座当日の会場設営・進行・後片付けなど講座開催に関する業務を、事務局職員等と協力して主体的に担う。

7 講座企画上の留意点

- (1) 講座回数は、6～7回を標準として8回を限度とする。
- (2) 1回の講座時間は、2時間とする。
- (3) 定員は、90名を上限とする。
- (4) 開催時期について、前期講座は5月上旬～7月中旬、後期講座は10月下旬～12月中旬とし、同じ曜日、同じ時間帯を原則とする。
- (5) 会場は、人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）を使用すること。それ以外の会場を使用する場合は、企画書に必要性を併せて明記すること。
- (6) 受講料は、事前に事務局が徴収する。（1回500円×講座回数分）
- (7) 受講料のほかに材料費やテキスト代が想定される場合は明記すること。
- (8) 託児サービスは、実施しない。
- (9) 営利目的や特定の政党・候補者の利害に関すること、特定の宗派・教派・教団を支援する内容は認められない。
- (10) 講座の講師予定者と事前に連絡や相談などを行う場合には、講座は企画の段階であり、講座開催が確定していない旨を説明し、講師に誤解を与えることのないよう留意すること。
- (11) 講師謝金は、「市民大学における講師謝金」に基づき支出する。
なお、講師謝金については事務局で判断することから、具体的な謝金等については、講師予定者に提示しないこと（交通費も同様とする）。
- (12) 講座決定後、館外学習を実施する場合は、予定している行程表（案）を作成すること。

「審査項目」と「審査基準」

(「プレゼンテーション審査マニュアル」より抜粋)

審査項目は、下表のとおりとする。

1 審査項目

(1)	社会ニーズ	社会の変化や要請，地域の特性や文化など，本市のまちづくりやコミュニティの発展，あるいは市民の郷土理解に資する社会的な視点やねらいが盛り込まれているか。
(2)	市民ニーズ	市民が求める高度で専門的な学習ニーズをとらえているか。
(3)	構成力	設定された講座のねらいに沿った各回の展開や組み立てがされているか，また実習やワークショップなど，学習効果を高めるための工夫がされているか。
(4)	運営力	適切な講師の想定，事前準備や講座運営に対する考え方など，確実に講座を運営していくための体制が整っているか。 <u>ただし，企画応募条件において，講師の確保までは求めないこととしているため，想定講師の受諾については審査に加味しない。</u>
(5)	発展性	講座を契機とするネットワークの形成，学んだことを実践し，生かせる仕組みづくりや導入，リーダー養成に資するスキルの習得など，受講者の行動や考え方の変化を促す効果があるか。

2 審査基準

点数	審査基準
5	とても優れている
4	優れている
3	やや優れている
2	やや劣っている
1	劣っている

令和8年度宇都宮市民大学専門講座応募申込書

令和 年 月 日

別紙の企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）のとおり、
令和8年度宇都宮市民大学専門講座企画募集に応募いたします。

代表者 氏名	
住所	〒
連絡先等	(自宅) 028 () (FAX) 028 () (携帯) — — (Email)
備考	

※ 個人情報については、宇都宮市民大学事業に使用させていただきます。
事業目的以外には使用いたしません。

※ 御不明な点は、生涯学習課（632-2648, 6332）担当：釜井まで
お問い合わせください。

令和8年度宇都宮市民大学専門講座企画書

様式 1

企 画 者	(グループ名がある場合は名称) あさひ 企画代表者に○を付ける			
	企画者氏名 (養成講座修了年度) ※グループ代表者に◎印, 企画代表者に○を付ける			
	①	栃木 太郎 (平成28年度)	5	横川 明子 (令和4年度)
	2	宇都宮 花子 (平成28年度)	6	養成講座修了年度を記入 (平成 年度)
	③	平石 次郎 (平成28年度)	7	(平成 年度)
4	清原 一郎 (平成28年度)	8	(平成 年度)	

グループ代表者に◎を付ける

1	コ ー ス 分 類	<input type="checkbox"/> 郷土を愛する「宇都宮学」コース ※開催回数の半数以上が宇都宮(人・物・歴史等)に関する内容であるもの
		<input type="checkbox"/> 今を読み解く現代社会コース
		<input checked="" type="checkbox"/> 暮らしを彩る文化・教養コース 当てはまるコースの□を塗りつぶす
2	講 座 名 サ ブ タ イ ト ル	「今こそ陶芸から学ぶ」 ～世界, 地域, 教育の視点から陶芸について考える～
3	希 望 期 間	○第1希望 (①) 第2希望がない場合は, ×を記入
		○第2希望 (×)
4	希 望 曜 日 時 間 帯	○第1希望 火 曜日 時間帯 (②) 右欄の時間帯の番号を記入
		○第2希望 月 曜日 時間帯 (①)
		○第3希望 木 曜日 時間帯 (②) 講座の開催曜日を第3希望まで記入 ※水曜日の午前, 午後是一般研修等により研修室は使用できません。
5	定 員	90名 令和8年度の上限は90名
6	内 容	全 7 回 詳細は別紙様式2学習プログラムのとおり
7	会 場	人材かがやきセンター研修室

No. _____

様式 2

令和8年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

講座名 サブタイトル	
企画の 目的・効果	
講座概要	
実施に伴う 課題・対応	
アピール ポイント	

回	期日	テーマ	ねらい	
1	月 日 ()			
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークシヨツプ <input type="checkbox"/> 他 ()	
2	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
		<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークシヨツプ <input type="checkbox"/> 他 ()		
3	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
		<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークシヨツプ <input type="checkbox"/> 他 ()		
4	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
		<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークシヨツプ <input type="checkbox"/> 他 ()		

5	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学 習 方 法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークシヨップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
6	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学 習 方 法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークシヨップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
7	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学 習 方 法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークシヨップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
8	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学 習 方 法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークシヨップ <input type="checkbox"/> 他 ()		

令和8年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

講座名 サブタイトル	今こそ陶芸から学ぶ ～世界，地域，教育の視点から陶芸について考える～
企画の 目的・効果	<p>この講座は、実は「社会貢献活動」のきっかけづくりを目的とする。東日本大震災以降、強く必要とされている「人と人の絆」。現在も、被災地に対するボランティア活動などの取組が行われている状況であり、「絆」の再構築を通して、社会教育の在り方を見直す契機であるとも言われている。</p> <p>この企画では、「陶芸」という文化的・趣味的な講座を前面に出しながらも、各講義の中で、陶芸を例示とした社会貢献活動に関わる学びや、「ざぶん展」に参画することで、『『地域貢献活動』の経験』と『『絆』の構築』に自然と関わっていくこととなり、また、受講された方々の経験の伝承などをおして、その家族や友人を含め「地域活動」への参加や「社会貢献活動」への参加にも繋がるものとする。</p> <p>陶芸の歴史は人の営みとともに古く、作陶技術は、時代を経て変遷し、生活に身近な器から心を豊かにしてくれる芸術作品までと、私たちとのかかわり方も幅広いものとなり、地域の観光振興や文化交流などに貢献する重要な地域資源ともなっている。</p> <p>本講座では国際的な視点から陶芸の歴史や文化を学んでいく。多くの被災を受けながらも、今に受け継がれ進化を続ける陶芸文化の力強さとその魅力に、グローバルな視点で注目していく。</p> <p>また、文星芸術大学が取り組んでいる陶芸を通じた特別支援教育現場との交流・地域活動等から、「陶芸の力が育む『人づくり』」や「陶芸の力が生み出した『ユニバーサルデザイン』」など、陶芸がもたらす様々な効果や効用を事例から学び、「陶芸」の今後の更なる可能性について学んでいく。</p>
講座概要	<p>企画した講座の趣旨(ねらい)や全コマ受講した後の効果を記入。また、特にターゲットとする受講者等がある場合にはその旨も記入。</p> <p>講座の概要を明記してください(パンフレット参照)</p>
実施に伴う 課題・対応	<ul style="list-style-type: none"> 「ざぶん展」のバックヤード見学などがあることから、安全確保に十分に努める必要がある。実施に際しては、十分な事前の連絡調整、会場の下見などを事務局とともに実施することにより対応する。また、運営ボランティアの人数確保にも努める必要がある。 陶芸の実習を伴うことから、実習費が高額にならないよう、効果的・効率的な実施内容について、講師と調整・検討していく。
アピール ポイント	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方に人気がある講師から学べることから、定員を超える申込みが期待できる。 「陶芸」に興味をもって参加した方に対し、講義や作陶による充足・満足感などのいわゆる「個人の要望」に応えることはもとより、陶芸を通じた「人と人の絆づくり」や「社会貢献活動への直接参加」により、地域活動を積極的に盛り上げる人材の育成も行うことから、「社会の要請」にも寄与する大変有意義な講座であると考えている。

コマごとの学習の「ねらい」について簡潔に記入

回	期日	テーマ	ねらい	
1	11月4日 (火)	戦乱と陶の歴史 (西洋と東洋の境界線～トルコの風～)	トルコの陶芸文化の力強さとその魅力について学ぶ。	
		内 容	学習方法	講 師
		日本と同様に地震の多いトルコでは、陶器も多くの被災を受けている。しかし、長い年月をかけて伝統を受け継ぎ、進化を続けている様子を講師の撮影した映像を交えながら学ぶ。	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()	○○大学 教授 ○○○○ 氏
		テーマ	ねらい	
		内 容	具体的に肩書きがわかるよう記入 【例】 ・○○○審議委員会委員 ・△△病院 理学療法士 ※未定の場合は、○○専門家、大学教授クラス等と記入 <input type="checkbox"/> 他 ()	
	月 日 ()			師

コマごとの講義内容について、簡潔に記入

具体的に肩書きがわかるよう記入
【例】
・○○○審議委員会委員
・△△病院 理学療法士
※未定の場合は、○○専門家、大学教授クラス等と記入